

年長組の新保育期に (三)

新庄 よしこ

發表力

幼稚園生活で、幼児の把握力と相共に發表力に就いて如何あつかふべきかを考へて居ります。これは考へるさいふよりむしろ、かなり以前からこれについては工夫もし、努力もしつゞけて参りました。

幼稚園での保育の一日を觀みれば、多くの場合が、おはなしは先生が話して下さるのを黙つて聞いて居ればすむ、無言で、クレオンを、色鉛筆を、鋏を、動かしても濟む、水の中を泳ぎまはるおたまじやくしを觀て居ればいゝ、だまつてお遊戯をし、唱歌は、機械的に口を動かしてゐる。これはまあ極端の例ですが、無言で一日の保育を何の差支えもなく受けられる場合もありますので、保母の方では一層發表力について相當の苦心をすべきではないかと思

ふのでございます。

年長組の新保育期にさいふ題のもこでは少々遅いので、把握力とは異り、これはむしろ年少組の始めから心がけ置くべきこゝでありますが、殊に年長組にもなりますれば、積極的に發表する機會を作つてやるこゝでも申しませうか、單なる個人對話に止るのみでなく、幾分意識性を含むものも存じます。

如何いふ方法で、發表力の養成をつゞけて参りましたかについて便宜上別けて申して見ませう。

- 一、談話
- 二、製作
- 三、テスト

の三つの場合があります。

(一) 談話の場合

これは年少組の最初から心がけておくことで、入園當初の談話は、談話の主目的よりもむしろ保姆の親しみを深めてゆくためにも申されませう。おはなしが最も親しみをましてゆくよい方法と思はれまして、はじめは、しかも昨日と同じはなしでもかまひません。否却つてこの場合いろいろの話をさりかへ引きかへするよりも同じ話を二三度おもしろく聞かせる方がいゝと存じます。追々親しんでゆく中に、いつも先生のおはなしを聞いてばかりは居ないで、すんぐ自分の思つて居る事を發言してゆく子があらはれて来る。友達に惹かれて、發表型の子は黙つては居ないで相ついで話しかけてくるといふことで、組の先生は、凡て、A、B、C、D、……は發表型、X、Y、Zはさうでないといふ事のはつきり解つて參りませう。さてそれから、先生は機會に、A、B、C、D……の方の聴き手、さなると同時に、X、Y、Zの言はうとする力を少しづつ引き出してやる、育てゝやる、これには何より個人對話の機會を多く持つといふことでございませう。

又、或る時は、ごく易しいことばを幼兒一人づゝに必ず發言させても見ます。例へば、一人づゝ名をよんで、返事をハイといはせる、何でもないうで、なか〜いへない子があります。又自分の姓名、——僕は太郎ですと云つてみませうなご、申しますと始めは全然云はない、次に太郎と聞えるかきこえない位で云ふ、次の時は、僕は太郎、さはずきりいふ、又僕は太郎ですと、いつの間にか立派に云ひ得る經過を通つたことは度々ございませう。つまり何だか言ひ澁りがちなものが、ことばそのものがごく易しいので、云つて見たら案外わけは無かつたといふ経験を度々味つてゆく中にすら〜と發表が出来ることばがございませう。

他に發表の機會を作るといふのは、夏休み前の一日、冬休みの前さか、保育期の終り目毎に集りを致します。保姆の心の中では、發表會のつもりなのでございませう。

(一) する事を前日に約束してかいておく。

保姆は幼兒一同にかう申します。

「あしたは、みんなが一人づゝおはなしをしたり、唱歌

をうたつたりして遊びませう。次郎さんは何をしませう。」

勿論次郎は何でもすらく／＼云へる子です。

「僕お唱歌」

「何をうたひませう」

「タンポポと汽車」

先生は、立つて行つて黒板にシヨウカ、タンポポ、キシヤ、ジロウミかいておきます。かうして黒板には、

一、シヨウカ、タンポポ、ジロウ

キシヤ

一、オハナシ

マサコ

一、オハナシ

ミツチ

一、ユウギ

ハルガキタ

ヒロコ

マスコ

サダコ

一、……

一、……

こいふやうに、プログラムをかいておきます。つまり突然ではなく、約束による発表でございます。かう申しても

ごく淡いもので、親へは申しませんし、稽古して来るなごゝ厭味なごこはないやうでございます。これ程でなくごも自ら集つたグループで致す事もございます。

(ロ)ごく内輪の集り、

別にお客様をよびません。いつも一緒に居る先生ご、お友達ばかりでございますので、上手下手で先生も幼児も氣苦勞するごこなしに楽しく過すごこが出来ます。

この集りで、年少組の場合は、する子もしない子もあるごこはいふ迄ありませんが、年長組になりますご、ごく特殊な、つまりその子の無口ごいふごこが人並みでなく、幾分痼疾性のものである以外は、相當に発表が出来るやうになるご存じます。

(二)製作の場合

幼児の發表力ご申しても、何々大學の辨論部でするごこは全然異なるのでありまして幼児の場合は保育を受けつゝ、至るごころで養はれてゆくものでございます。只今私の室で二年計畫で、東京驛の賣店から始つて、切符賣場、改札

口、荷物受付、を發展して参りました。これを計畫する最初に、製作さいふ區切られた觀念ではなく、幼児のあらゆる生活々動を基にして始めましたことでございます。勿論毎日このことで暮して居るわけではなく、時々すれば一日中手も觸れないさいふ日もございますが、しづかに眺めて居ります。切符賣場で、賣店で、荷物受付で、かなりさころでなく、大いにこの發表力が養はれてゆくのを見まして、個人製作に或る意義を見るに、相互關係をあらはし得る大きな協力製作が是非必要であることを深く知つたのでございます。

例へば賣店の場合は申す迄もなく、賣り手を買手まで、互ひにはなしをし合ふことはわかつて居りますが、キップ賣場でも、同様、大磯迄のキップを下さい、僕は滿洲に行くんです、三人で行くから三枚下さい、急行券も下さい、さいつて買ふ、キップを買ふのに無言では出来ないことですから必ずそこには發言を必要とし、見てゐます。相當に廣い範圍で話し合つて居ります。

旅行の爲にトランク、荷物なき作つて居りますが、是れ

も汽車に積む時に、下關迄願ひます。さか、この荷物の中にはガラスがはいつてゐますから大事にして持つて行つて下さいと云つて、そのトランクを、特にしづかにあつかつてゐるなぎの光景を見ます。又、東京驛に電話が無くちやつまならないさ申すので、苦心して、電話をつくりました、勿論二つ。事實は遠距離に置くべきですが、兩人の話の進展を思つて、近くに備へつて置きましたところ、これこそ大いに發表力を養ふものさなつたことに喜んだのでございます。互ひに話し合ふそのはなしは、次から次へさまことにおもしろく廣がつてゆくのでございます。

殊にこの生活々動を基にした協力製作によつて養はれてゆくいろ／＼のこころ、觀察力、把握力、發表力、製作力なきが、まことにわざみらしからぬ養成機關さなつてゐる様に思はれて保姆にさつてはまことに興味深い研究の對象であるさ存じます。

(三) テスト

最後には、所謂テスト、是れにあたるよい言葉を知りま
(以下四九頁下段につゞく)

で、旅程變更のために幾度郵船や、クック社や、正金等へ行き來したこゝでせう。一行何れも無事元氣旺盛ながら、日支變遷の磅價の下落には閉口したのでした。

九月二十九日、伯林を愈々後に出發するにあつて、私はリンデンの並樹の落ち葉を泌々こした心地で踐んで歩きました。大島先生は

句もなくてリンデンの落ち葉ふみ歩く

ミヤルミ、若月氏は

金なくてリンデンをゆくやかへる雁

そこで私も

ものを思ふやリンデンの落ち葉はらはらこ

まここに獨逸の九月末は、冬の厚い外套を伯林で拵へて着て歩いたのですがそれでも寒く、色美しい落葉が街路に散り敷かれ、風に捲かれて、……おゝ寒む。

* * * *

(四一頁よりつづく)

せんのでそのまゝテストに申しますが、これによつて養はれてゆく場合がありませう。入學期を直前にして俄か仕込みを避ける爲に、又協力生活を良くするためには、一層個を知る必要がある爲に、出来る限り、一人づつを知ろうと努めてゐます。知るばかりでなく、この年齢相當の知力で知つておくべき事實は、特に知らせることも致します。この場合は、なるべく一人づつを順々によんで靜かにきいて見たり、話し合つてみたり致しますので、時には、直接記憶を養ふ爲に或る言葉を云はせて見るなごのこゝもあつて、自ら發表力を養ふ機會になります。

以上發表力を養ひますこゝについて、述べましたこゝですが、之は上手に發表する、うまくするこゝいふ意味ではないこゝいふこゝを呉々もお断りして置きます。始めにも申しました如く、一人の子ごもがもしかしたら、無言でも一日がすんでしまふ、それが一週間も續いたしたら、保姆が留意しなければ、保育を受けるに何らの痛痒を感じないですむこゝいふ事になつてしまふ事を懼れるのでございます。